



気付き

・ 本当の事を言って怒るような相手は友達とはいえないのでは。
・ 何でも言い合える仲良しの友達だからきちんと言わなければ。
・ 友達なのになぜ教えてくれなかったのか、と正子さんは悲しい気持ちになると思う。

決意

・ ひろ子にとって正子さんはずっと仲良しでいたい大事な友達なのだと思う。正子さんを信じる気持ちは必ず伝わりとひろ子は考えたのだと思う。
・ 「私のことを思ってくれているから言いづらいことも教えてくれたんだ」と、正子さんはきつとひろ子の気持ちを分かってくれると思う。

見つめよう 生かそう

「ひろ子さんが書いた絵はがきのお礼の手紙を、正子さんは受け取りました。正子さんはどんなことを考えたでしょうか。みなさんは、正子さんの代わりにひろ子さんに気持ちを伝えてください。」
・ 切手のことを教えてくれてありがとう。ひろ子さんの気持ちが嬉しかったよ。
・ 泊まりに来てね。色んな話しようね。ひろ子さん、これからもずっと仲良しでいようね。

終末

詩 「ともだち 谷川俊太郎」を読む BGM

授業のポイント

○自我関与しやすい教材なので、十分にひろ子の気持ちに共感させ、正子の気持ちにも触れることで友達の信頼関係について深く考えさせたい。
○役割演技の際には、ねらいを明らかにして考える時間を十分確保すること。また、発表を通して、友達とのよりよい関係について多面的・多角的に考えられるように配慮する。

○迷っていたけれど、最終的に「正子さんきつと分かってくれる」と、正子さんと自分との信頼関係に気付いたひろ子の心の動きをじっくりと考える。

補助発問

「ひろ子はどんなことに気付き、本当のことを伝えた方がいいと決意したのでしょう。」

○導入で考えたことに戻り、ひろ子と正子はどうのような関係なのか考え、「大事な友達」という事に気付く。(ワークシート)
ひろ子と正子の関係ではあるが、児童は、自分の友達の顔を思い浮かべながらワークシートに記述することができる。

○大切な友達との関係について考え、信じることの大切さに気付き、友達と信頼し合い、助け合いたいという気持ちが高まる。

